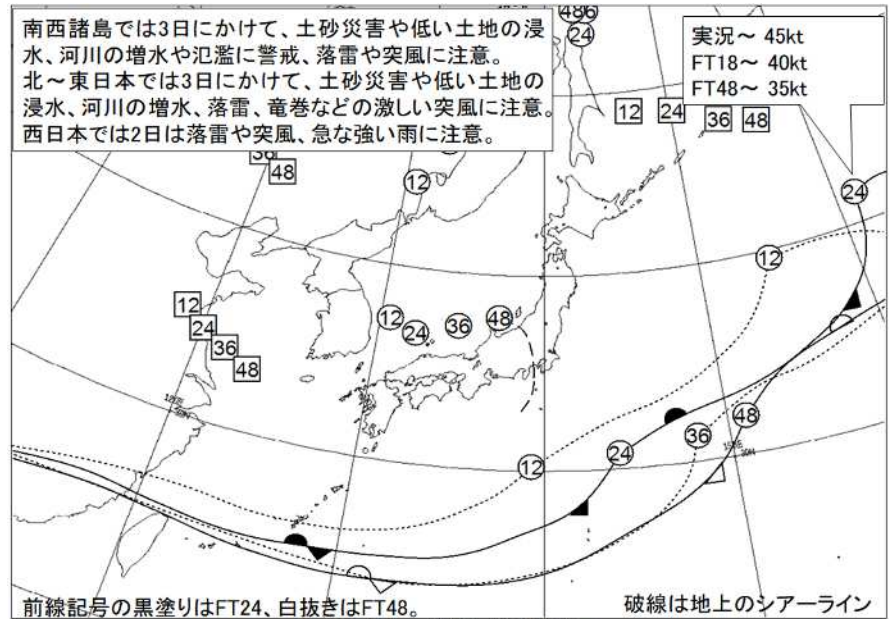


### 1. 実況上の着目点

- ① 日本の東には、台風第1号から変わった温帯低気圧があって最大風速45ktの[GW]級で北東進。低気圧から前線が日本の南、南西諸島を通過して、華南にのびている。
- ② 北日本を500hPa 5520～5580mのトラフが通過中。北日本では雷を伴って、強い雨を解析。
- ③ 中国東北区の5580m以下で-18℃以下の寒気を伴う寒冷渦が南東進。
- ④ 南シナ海には5月31日15時に発生した台風第2号があって北西に時速10kmで進んでいる。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の前線上の日本の南に1日朝までに低気圧が発生し東進。前線や低気圧に向かって、下層暖湿気が流入し大気の状態が不安定となる見込み。1日は小笠原諸島では落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は、-18℃以下の寒気を伴ったまま、2日は日本海を南東進し、3日には北日本を通過する。この寒冷渦に対応する低気圧が、3日にかけて、日本海をゆっくりと東に進む。また、この低気圧から南東にのびるシアーラインが本州付近を通過する。上空寒気と低気圧やシアーラインに向かう下層暖湿気の影響により、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り、大雨になるところがある見込み。北～東日本では3日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。西日本では2日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ③ 1項④の台風第2号は、1日には華南に上陸した後、衰弱して熱帯低気圧になり、東に進む見込み。
- ④ 1項①の前線は、1日は南西諸島付近では南下して、2～3日は先島諸島付近に停滞する見込み。前線に向かって、大陸や沖縄の南から850hPa  $\theta_e$  354K以上の下層暖湿気が流入する。特に大陸からの暖湿気は、2項③の熱帯低気圧起源のものが含まれ、非常に湿っている見込み。このため、南西諸島では3日かけて大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が長く続き、大雨となる所がある。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。落雷や突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。